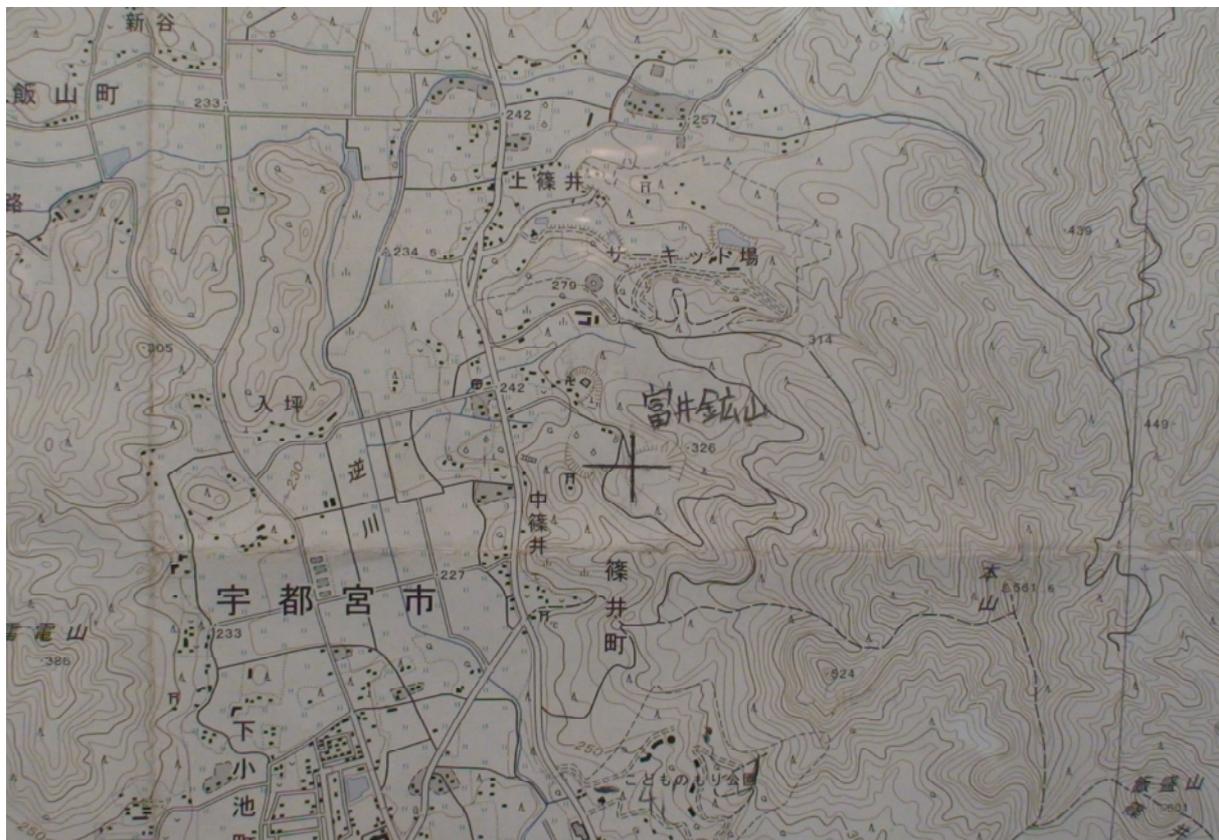


(8) 富井(とみい)鉱山跡

参考文献(1)を手引きに、富井鉱山跡を探查しました。主要鉱石は江戸時代より金、その後、黄銅鉱、黄鉄鉱を主とし、輝蒼鉛鉱、閃亜鉛鉱、赤鉄鉱、白鉄鉱、自然金を産出したそうです。地図中の+印が富井鉱山跡の位置です。東経139.8218°=139°49'18"、北緯36.6934°=36°41'36"、高度=?(未定)。この場所には車でも行き着けず、広い原っぱ状となっています。東側が斜面となって、木立が生い茂っています。坑口跡などは全くわかりません。+印から東の方に進むと、鉱山の作業所などがあつたような地形が存在します。現場では偶に小さい黄鉄鉱がこびり付いた石英の塊が見つかることもあります。いわゆるズリは全く見あたりません。現場で、偶然であつた地元の年配の方の話です。廃鉱山になった後、安全のため、坑口などを爆破して閉鎖したそうです。その後、この場所は射撃場として使用されたが、別の地に射撃場ができたので、廃業し、現在はこの地は空き地となっているようです。鉱山稼働時には、「六方石(=大きな水晶)」が良く出たそうです。

地図で、サーキット場の南に位置している林道(行き止まりになっている方)を登っていくと、沢を渡ってから左手に砂防ダムがあります。「大同坑沢」という名札が取り付けられている。この沢の名前らしい。名前からすると、この沢のどこかに、かつて、坑道口があつたと思われる。この砂防ダムから沢に入って採集をした。少し紫がかった水晶もどき石英塊と、小さな水晶群に、緑色の銅の2次鉱物が付着+たぶん黄銅鉱であろう微結晶が散在した塊を見つけた。この上の方に鉱脈があつたらしい。



地図 国土地理院 2万5千分の1地形図「下野大沢」

探查日 2009年3月、その他の日

参考文献

(1)「日本地方鉱床誌 関東地方」、今井、河井、宮沢、朝倉書店。114頁~117頁。

解説

参考文献(1)によると、この鉱山の主産物は江戸時代は金であり、当時の旧坑が各箇所にあるそうです。その後、昭和には銅を算出していたそうです。空き地などを注意して探すと、偶に石英塊があります。ハンマーで割ると、石英中に薄片状、微粒状の黄銅色に輝く金属物が見つかります。光の当て方によっては少し緑がかることもありますので、黄銅鉱と見ました。

鉾山跡写真



地形図中の十字点から東の方を撮影。平らな原っぱの向こうは崖となっている。坑口があったらしい。



前述の崖の下に坑口らしい痕跡がある。



ダム銘板は「大同坑沢」。この沢のどこかに坑道があったらしい。それらしい箇所があるが、穴やズリは見あらず。砂防ダムの工事で消えてしまったのだろうか。

採集鉱物写真

品名 黄銅鉱 大した物ではないので無掲載